

『土砂災害や水害から市民を守る 防災対策をすすめています』

１．目指す姿

土砂災害や水害のない安全安心の街

総合的な治山・水循環・雨水利用の整備すすむまち

２．指標

３．現状と課題

気候変動による豪雨や強い台風は、各地に土砂災害や水害を多発させています。箕面では、急傾斜地など土砂災害危険ヶ所も多く 70 ヶ所を超え、箕面川や千里川の沿岸浸水家屋は、約 7500 戸と予測されています。地域防災計画による一時間当たり 30～48 ㎍の雨水計画の整備は 45%です。

近年、都市化で地面が屋根とコンクリート等で被われ、同じ降雨でも約 2 倍の鉄砲水による潜在的水害危険エネルギーを高め、さらに、豊能地方の砂防指定地や調節地等流出抑制の計画降雨量（一時間当たり 87.9 ㎍）に合わせた地域防災基本計画の充実が必要です。

そのためのは、“大雨は流せば災害、ためれば水循環資源”を基本とし、総合的な地域治水対策を促進することが重要です。具体的には、全公共敷地や市民・事業者の敷地に雨水を溜め水循環・雨水利用を促進し、散水や打水利用、トイレの洗浄水等に活用すれば水道使用量を減らせ節水も推進できます。

かつて、箕面の激しい都市化は、河川の流下能力を上回り下流都市に水害の危険性を高め各地の水害をもたらしました。この教訓を生かし災害から市民を守る防災対策は、茨木市や豊中市などの洪水の軽減効果がある水循環型の総合治水を推進するまちづくりが必要です。市民と行政の協働で鉄砲水を抑え浸水をなくす災害対策を進め、きめ細かい浸水対策も進めています。

４．取組・役割分担

(1) 市民等が取組むこと

- ・周辺のがけ地を点検し災害弱者の命も守る防災避難の訓練を行なう。
- ・災害非難情報が発令されたときは、みんなで助け合い避難します。
- ・梅雨前には安全点検も兼ね溝や水路のゴミ清掃を行ないます。
- ・水道節水につながる水循環・雨水利用や浸透マス設置をすすめます。
- ・新築や増改築時に雨水浸透マスの設置を促進する。
- ・流れ出る雨水を敷地に一時溜めるビオトープや花壇・緑被覆地を増やす。

- ・整備された場所に「水循環・雨水利用を促進の家」の表示を進める。
- ・ハザードマップの学習会や安全避難講習会や避難訓練を行ないます。
- ・大雨時には、浸水要因をみんなで減らすために、洗濯や風呂水を大雨も時には流さない知恵も広げます。

(2)市民等、行政が協働で取り組むこと

- ・土砂災害危険ヶ所の周辺市民へ災害危険度と避難場所を判りやすくする
- ・土砂災害の未然防止、災害避難情報を関係市民に周知し、人の命を守る。
- ・全公共敷地の水循環計画を確立し促進する。
- ・雨水浸透マスの支援を復活します。
- ・雨水利用を奨励します。

5．個別案件に関する提言

(1)健全な水循環型の総合治水

雨水を担当する下水道と河川行政と分担し合う構想計画で、下流域の洪水も抑制し水害対策の整備
透水性舗装や道路側溝、住宅屋根の雨水は雨水枡から地下浸透の整備
農業を守り洪水調節、地下水涵養機能をまもる
土砂流出防備保安林や山の保水機能を高める水源涵養保安林の整備

(2)環境配慮の雨水貯留・活用

地域総合治水対策の整備
敷地内緑化の整備
雨水浸透、雨水利用の推進
雨水貯留槽（ミニダム）の設置
敷地内の雨水をトイレ用水、冷房用の冷却水、防火用水に利用
雨水を利用してビオトープの整備

(3)きめ細かい浸水対策の整備

浸水区域の一番低い家屋の玄関などに雨水浸入を防ぐため角落としの設置
地域要望による「角落とし」「土のう」を支援
浸水区域の上流部の学校、公園等公共敷地に雨水貯留流出抑制施設の整備

6．まちづくりの効果

水路の拡幅工事費より安くできる。地元建設の仕事の増加、雇用促進
防災協同意識とコミュニティー
水道節水で得する地球温暖化防止、ヒートアイランド
下流都市との友好